

企画展
紹介世界を旅した小さなデザイン——150年前の輸出ラベルとその役割——
2026年7月3日(金)～8月29日(土)

アドミュージアム東京では、2026年7月3日(金)から8月29日(土)まで、企画展「世界を旅した小さなデザイン——150年前の輸出ラベルとその役割——」を開催しました。

明治から昭和初期にかけて、日本は茶・生糸・マッチなどの輸出を通じて海外市場へ進出しました。これらの商品に貼られたラベル(商標)は、品質や産地を伝えるだけでなく、日本製品の魅力や信頼を伝える広告メディアとして機能していました。本展では、当館が所蔵する300点を超えるそれらの資料を通して、多彩なラベルのデザインと、広告コミュニケーションにおける役割を紹介しました。

会場では、「明治という新時代」を導入に、「茶」「生糸」「マッチ」の3つの展示コーナーを設け、それぞれの輸出の歴史やラベルデザインの特徴を実物資料や関連資料を交えて紹介しました。文明開化によって西洋の技術や文化が流入し、人々の暮らしが変化していく時代背景とともに、ラベルに描かれた多彩なモチーフを楽しみながら、茶・生糸・マッチそれぞれの表現を鑑賞できる展示としました。

また、複製したラベルを自由に手に取って観察できる体験コーナーや、ラベルのデザインモチーフを用いたスタンプでオリジナルラベルを制作できる参加型コーナーも設置しました。

来館者からは、「1枚1枚のデザインをじっくり見比べられて面白い」「当時、日本が海外でどのように見られていたのかがわかった」といった感想が寄せられました。広告ミュージアムならではの視点

からコレクションを読み解くことで、広告の歴史や広告が果たしてきたコミュニケーションの役割を身近に感じてもらえる展覧会となりました。

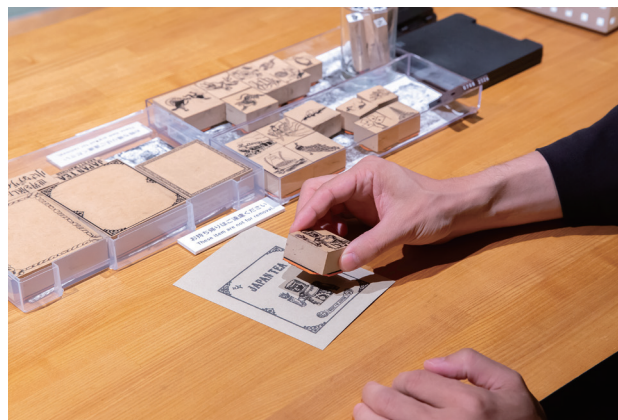


会場風景





「いろんなラベルをよーく見てみよう!」
茶・生糸・マッチの多彩なラベルを手に
取り、デザインの違いを楽しめるコーナー



「オリジナルラベルを作ってみよう!」
茶・生糸・マッチのラベルに描かれた
フレームやアイコンをモチーフにしたス
タンプを自由に組み合わせ、オリジナ
ルラベルづくりを楽しめるコーナー



ライブラリーでは、展示内容をより深く知
ってもらえるよう、本展の企画にあたり参
考とした書籍を含め、明治期の生活文化
や茶・生糸・マッチの歴史、ラベルデザ
インに関する関連書籍23冊を紹介

開催中

対話が生まれる言葉展 —TCC賞2026— 2026年9月18日(金)～10月31日(土)

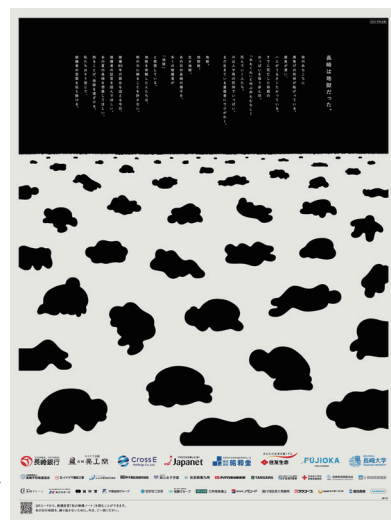
コピーの最高峰を選ぶ広告賞「TCC賞」(東京コピーライターズクラブ)の2026年度受賞作品を紹介する企画展を開催中です。本展では、2026年度TCCグランプリを受賞した栗田雅俊氏(電通)、泉田岳氏(TOKYO)による東日本旅客鉄道「Suica」いろいろなものを置いていき、たみちゃんは上京する。のテレビCMシリーズをはじめ、TCC賞14作品群、最高新人賞の鳥巢智行氏(Better)による長崎新聞社「8.9平和企画」長崎は地獄だった。の、新人賞20名、審査委員長賞3作品を、受賞者自身による制作背景やコピーに込めた思いなどの解説とともに紹介しています。

会場では「対話」をテーマに、広告コピーを人と人との対話や社会とのコミュニケーションを生み出す表現として捉え、その魅力や役割を紹介しています。コピーが生まれた背景や発想のプロセスにも触れながら、広告表現が社会や人々にどのような影響を与えているのかを考えるきっかけとなる展覧会です。

また、ライブラリーでは連動企画「コピーライターの本棚」を開催し、受賞者が影響を受けた書籍や創作のヒントとなった1冊、著作などをコメントとともに紹介しています。さらに、受賞者によるトークイベントも開催し、広告コピーの最前線に触れながら、展示内容をより深く楽しんでいただけるプログラムを展開しています。



TCCグランプリ
栗田雅俊氏(電通)・泉田
岳氏(TOKYO)
「いろいろなものを置いてい
き、たみちゃんは上京す
る。」
東日本旅客鉄道/Suica
/テレビCM「たみちゃん
の上京」篇他



TCC最高新人賞
鳥巢智行氏(Better)
「長崎は地獄だった。」
長崎新聞社/8.9平和企画/
新聞